

佐久市臼田地区小学校施設整備検討委員会 委員名簿

任期:平成26年5月14日～平成28年5月13日(2年間)

区分	氏 名	所 属 ・ 団 体 等
小 中 学 校 長	1 滝澤 俊明	田口小学校 校長
	2 荒井 裕子	青沼小学校 校長
	3 小林 一洋	切原小学校 校長
	4 伊藤 和子	臼田小学校 校長
	5 山浦 忍	臼田中学校 校長
P T A 代 表	6 井出 行則	田口小学校 PTA代表
	7 三石 幹	青沼小学校 PTA代表
	8 大工原 英次	切原小学校 PTA代表
	9 真田 順一	臼田小学校 PTA代表
	10 浅川 博	臼田中学校 PTA代表
保 育 園 ・ 幼 稚 園 の 保 護 者 代 表	11 甘木 順子	田口保育園 保護者代表
	12 清水 聡	里曲保育園 保護者代表
	13 土谷 豊	青沼保育園 保護者代表
	14 市川 勉	切原保育園 保護者代表
	15 山下 あかね	臼田保育園 保護者代表
	16 市川 あかね	佳里保育園 保護者代表
	17 宮澤 雪枝	佐久南幼稚園 PTA代表
区 長 代 表	18 志摩 重之	田口地区 区長会代表
	19 木継 正信	青沼地区 区長会代表
	20 仲沢 文夫	切原地区 区長会代表
	21 市川 裕康	臼田地区 区長会代表
学 識 経 験 者	22 高橋 基	会長
	23 丸山 正俊	
	24 出澤 潔	
	25 佐々木 悦子	
	26 井出 民生	副会長
	27 牛久 英雄	
	28 柳澤 優子	
	29 川村 良一	
	30 土屋 薫	

(順不同 敬称略)

1. 昨年からの経過

(1) 臼田地区区長会への説明会

平成25年8月23日 臼田地区区長会長への説明会（4名）
 平成25年10月29日 臼田地区区長会役員会への説明会（12名）
 平成25年11月20日 臼田地区区長会への説明会（44名）

(2) 小中学校PTAへの説明会

平成25年12月19日 臼田地区PTA連絡協議会への説明

(3) 各地区区民への説明会

①説明会の目的

臼田地区小学校ごとの児童推計と学校施設改築等の状況について、資料を基に区民の皆さんに現状を知っていただくと共に、どのようなご意見・ご要望等をお持ちかを伺い、今後の学校づくりに反映させるため、各地区で区民を対象に、また1会場で子育て世代を対象に説明会を開催した。

②提示した資料内容

- ・臼田地区4小学校の児童推計
- ・学校施設建設までの経年数及び各学校施設の建設・改築年度の状況
- ・学校給食の現状

③参加者の状況

対 象	日 時	会 場	参加者数
切原地区	平成26年2月4日（火） 午後6時30分～午後8時4分	切原会館 研修室	28 人
田口地区	平成26年2月6日（木） 午後6時30分～午後7時51分	あいとびあ臼田 ホール	30 人
臼田地区	平成26年2月7日（金） 午後6時30分～午後7時30分	臼田館 研修室	43 人
青沼地区	平成26年2月10日（月） 午後6時30分～午後7時57分	青沼会館 研修室	54 人
子育て世代	平成26年3月23日（日） 午後3時～午後3時55分	あいとびあ臼田 ホール	34 人
合 計 5会場		延べ	189 人

④意見・要望等の数

5会場で意見・要望等を発言された方	54 名	類似した意見・要望等の集約	74 件
意見・要望等の数	延べ 258 件		

2. 「臼田地区小学校の現状と課題」の説明会に出された意見・要望等

(1) 類似した意見・要望等の集約の内訳

	項 目	件 数
1	学校の統合について	23 件
2	説明会・今後の予定について	13 件
3	検討委員会について	9 件
4	学校づくりについて	9 件
5	まちづくりについて	9 件
6	児童数の減少について	8 件
7	学校施設について	3 件
合 計		74 件

今後の説明会や佐久市臼田地区小学校施設整備検討委員会においても、「佐久市型論点整理手法」を用いて市民の皆様から意見等それらを整理し積上げながら一定の方向性を出していきたいと考えています。

※佐久市型論点整理手法…市民からの意見等に対して「質疑応答形式」で文書化し、市の考えを時系列的に積み上げた議論の経過を示す方法

(2) 類似した意見・要望等

平成26年2月4日～3月23日の区民説明会

番号	分類	意見・要望事項	番号	考え方
1	学校の統合	子ども達の通学に負担にならない所へ学校を建ててもらいたい。	1	通学の環境と学習の環境も考慮したうえで、検討委員会で協議していきます。
2	学校の統合	統合は地域から学校が減ることなので、地域を加味して検討してもらいたい。	2	各地域全体の意見を聞いて、その中からまとめていきたいと考えています。
3	学校の統合	臼田地区の小学校が1校になれば適正規模になるので、最初から市教育委員会で統合すると言ったほうが良いのではないかと。	3	統合するかしないかは、検討委員会で十分な議論をしていただき、一定の方向性を出していきます。
4	学校の統合	市が進める統廃合の考えは、望月地区4小学校のイメージがある。	4	望月地区4小学校は、望月町の時に検討委員会で2年以上協議して方向が出されました。臼田地区においても、統廃合については、検討委員会で十分な議論をしていただき、一定の方向性を出していきます。
5	学校の統合	切原小学校と青沼小学校だけでも、現校舎で一緒になった方が良いのではないかと。	5	臼田地区全体を見据えた中で、検討委員会で議論していきま

(佐久市型論点整理手法)

番号	分類	意見・要望事項	番号	考え方
6	学校の統合	出来れば2校ぐらいで地域を活性化させたい。	6	統合を含め、地域における今後の学校の在り方を検討委員会で議論していきます。
7	学校の統合	周りから小学校統合の話が聞か、学校の統合は白紙ということか。	7	様々な意見を出してもらい、検討委員会の中で議論していただいた後、教育委員会としての方向性を出していきます。
8	学校の統合	小学校の統合の枠組みが決まっているのか。	8	決まっています。まずは学校規模を決めて、次に場所という方向になります。
9	学校の統合	子ども達にとってどんな学校がいいのかを先に考えて、規模とか場所はその後ではないか。	9	規模については、どんな学校がいいかを考える際の優先的検討事項の一つだと考えております。それが場所にも関わってこようかと思えます。
10	学校の統合	小学校を統合して欲しいということを区長会でいっているのか。	10	昨年7月31日の臼田地区市政懇談会において、区長会から児童にとってより良い学習環境となるよう、建設的な意見をいただいています。
11	学校の統合	先行きは大きい学校が小さい学校を引っ張る。臼田小学校が切原小学校を、田口小学校が青沼小学校を引っ張るようになると思う。	11	そうした様々な意見をいただきながら、検討委員会で十分に議論して、今後の学校の在り方について一定の方向性を出したいと考えています。
12	学校の統合	4校を1校にするのか2校にするのか、教育委員会で大胆にメリット・デメリットを出してもらいたい。	12	臼田地区小学校の現状と課題や統合を含め、小規模学校のメリット・デメリットを示していきます。
13	学校の統合	個人的に小学校の統合は賛成であるが、地元から学校がなくなるなど避けては通れない問題はある。	13	皆様から出していただいた意見をもとに、検討委員会でそういった問題を議論して、一定の方向性を出していきます。
14	学校の統合	より理想に近づけるようなことで、統合を進めてもらえらばいい。	14	臼田地区において、最善の小学校の在り方を検討委員会で議論していきます。
15	学校の統合	周りでは小学校の統合ありきの話である。	15	皆様の意見を聞き、情報提供をしながら検討委員会で議論して一定の方向性を出していきたいと考えています。
16	学校の統合	小学校の統合は大事である。	16	検討委員会で、どんな教育環境がいいのか十分に議論して一定の方向性を出していきたいと考えています。
17	学校の統合	例えば、臼田と切原、田口と青沼が合併するという案が市民から出ているか。	17	説明会の中で、青沼と切原のみの統合と田口と青沼、切原と臼田の統合案がありました。今後、検討委員会の中で臼田全体の学校づくりを見据えた中で議論していきます。
18	学校の統合	臼田給食センターも含めての話なのか。	18	小学校の環境づくりを最優先し、老朽化してきている臼田給食センターについても検討していきます。
19	学校の統合	臼田地域は千曲川を挟んだ戦いがある。	19	一番問題になることは学校の設置場所だと思います。そういった問題についても、検討委員会で議論を重ね、子ども達にとって、どのような教育環境が望ましいかという観点から一定の方向性を見出ししていきたいと考えています。
20	学校の統合	小学校の建設場所の取り争いから始まることになる。	20	そういった意見もお伺いしながら、臼田全体の学校づくりを見据えた中で、一定の方向性を出していきたいと考えています。
21	学校の統合	青沼小学校を存続させていただきたい。	21	そういった意見もお伺いしながら、臼田全体の学校づくりを見据えた中で、一定の方向性を出していきたいと考えています。
22	学校の統合	現臼田小学校の場所に4小学校を統合させ、歩道橋を壊し小学校への出入口を広げる噂が地域に流れている。	22	現段階において、市教育委員会ではそのような計画はありません。
23	学校の統合	今ある小学校がそれぞれの地区の真ん中にあるので、身近に小学校がある環境で、4つの配置は悪くない。	23	小学校は地域の拠り所という位置づけで大切に考えていなければいけないという一方、少子・人口減少社会において、活力を生み出す学校環境を考えていかなければならないと考えています。
24	説明会・今後の進め方	臼田地区区長会で説明した内容と同じか。	24	区長会と地区説明会等においては、同じ資料を使って現状と課題について説明しています。
25	説明会・今後の進め方	課題とは何か、統合ありきなのか。	25	児童数の減少、校舎の老朽化、統合する場合の場所などの課題をこの説明会の中で共有して、臼田地区小学校の整備をどう行っていくか、検討委員会で議論し一定の方向性を出していきます。
26	説明会・今後の進め方	4地区の説明会の意見集約を区民に知らせて欲しい。	26	それぞれの地区でいろんな意見が出されているので集約し、結果として全戸配布でお知らせします。
27	説明会・今後の進め方	子育て世代の母親として説明会を土曜日の昼間とかにしてもらえないか。	27	今後、子育て世代の女性が参加できる時間帯を考慮して、もう1回全体説明会を開催したいと考えています。(3月23日(日)午後3時から、あいとびあ臼田で開催しました。)
28	説明会・今後の進め方	小学校の統合を前提とした説明会か。	28	この説明会は統合が前提の会議ではなく、臼田地区の皆様、臼田地区小学校の現状と課題について話し合い、情報を共有するための第一歩の会議です。
29	説明会・今後の進め方	もっと前にこういう場が設けられたのではないかと。	29	そういった今までの経過については重く受け止め、これからより良い教育環境を早く整えていきたいと考えています。
30	説明会・今後の進め方	保護者会等で説明会の要望があれば来てもらいたい。	30	学校の保護者会等で要請があれば、教育委員会から説明に伺います。
31	説明会・今後の進め方	児童推移が平成31年度まで出ているが、そこまで現状が続くのか。	31	学校の新しい方向が決まって子ども達がそこへ移るまでは、今の状況が続くということです。必要な修繕はその都度行い、児童にとって安全安心な環境整備に努めていきます。
32	説明会・今後の進め方	説明と同時に市教育委員会の方針を聞かせてもらいたい。	32	この説明会は、より多くの方に現状を知ってもらうためのものであり、その中で皆様に話題にいただき、検討委員会で取り上げ一定の方向性を出していきたいと考えています。
33	説明会・今後の進め方	意見集約にアンケートを取るなどの方法をやってもらいたい。	33	検討委員会で一定の方針が出たところで、市のホームページに掲載し、意見を募集していきます。
34	説明会・今後の進め方	議事録はどういうふうにするのか。	34	検討委員会の皆様からいただいた意見等は、佐久市型論点整理手法を活用して区民の皆様にお知らせしたいと思えます。

(佐久市型論点整理手法)

番号	分類	意見・要望事項	番号	考え方
35	説明会・今後の進め方	今後のスケジュールを教えてください。	35	検討委員会にも皆様の意見をお伝えし、いろんな材料から一定の方向付けをしていただけるよう、進めてまいります。5月14日(水)に臼田地区の小中学校長、小中学校PTA代表、保育園・幼稚園の保護者代表、区長会の代表、市内の学識経験者を合わせた30人による「佐久市臼田地区小学校施設整備検討委員会」を設置・発足しました。
36	説明会・今後の進め方	これからの進め方についてどう考えているのか。	36	平成26年度は、学校づくり・学校規模・学校配置(統合を含めた)について検討委員会で議論し、市民の皆様からも意見をいただいて検討していきます。そして、学校の場所についても一定の方向性を出していきたいと考えています。平成27年度から、その基本に立ってさらにどのような学校をつくっていくかについて検討していきたいと考えています。
37	検討委員会	検討委員会の委員の任期は複数年がいい。	37	検討委員の任期は2年です。
38	検討委員会	ここ2年が大事だと思う。	38	検討委員会の委員の任期は2年で、それぞれの立場の皆様が集まるので、選出母体等の意見を含めて、自由に意見等を出していただき、議論していきます。
39	検討委員会	自由に発言してもらいたい。	39	
40	検討委員会	先を慌てて決めなくてもいいのではないかと。	40	検討委員会で2年、学校改築に取り掛かり完成までに約7年、合わせて約9年がかかります。その間、児童数の減少や校舎の経年劣化等が進行していきます。臼田地区小学校の整備については、早急に進めなければならない課題であると考えています。
41	検討委員会	検討委員会委員が属している保育園等の組織へも説明して、意見を吸い上げて欲しい。	41	どのような組織でも、ご要望に応じて、こちらで説明申し上げ、皆様の意見等をお聞きし、検討委員会で議論していきます。
42	検討委員会	検討委員会の結論が全てになるのか。	42	最終的な結論を出すのは市教育委員会であり、検討委員会ではありません。
43	検討委員会	諮問機関として市へ答申するのか。	43	検討委員会は子ども達にとって、こういった規模の学校がよいのか、学習環境・安全性等の観点から議論をしていただき、どのような場所がいいのか等、一定の方向性を出していただくためのものです。
44	検討委員会	検討委員会の意見等は、尊重されるのか。	44	
45	検討委員会	検討委員は実際に子育てしている父母が多く参加できる人数割にして欲しい。	45	検討委員は、各小中学校のPTAの代表や保育園・幼稚園の代表など、子育て世代の皆様からも多くの意見をいただける体制を整えていきます。(検討委員の構成については、別紙委員名簿のとおりです。)
46	学校づくり	全国に誇れるビジョンを作って、学校づくりをしてもらいたい。	46	臼田地区の伝統や文化を基調とした構想を基に、検討委員会や地域の皆様と議論をしていきます。
47	学校づくり	子ども達が臼田の学校へ行きたいと思う学校づくりをしてもらいたい。	47	出来るだけ早く整った教育環境を子ども達に提供したいと考えています。
48	学校づくり	ホームページで意見を募れるようにして、学校を作ってもらいたい。	48	臼田地区全体の教育環境をどう考えるか、という意見をホームページなどの媒体を活用するほか、PTAなどの会合に出向き、多くいただくよう工夫します。
49	学校づくり	若い母親を対象にアンケートを実施しているか。	49	これまでアンケートは行っていませんが、今後、検討委員会が必要となれば実施を考えてまいります。
50	学校づくり	4小学校の交流学习を行ってもらいたい。	50	現在、臼田地区の小中学校の連携を図るため、「臼田地区教育推進委員会」が設置されており、各小学校の連携事業についても協議されています。今後、各学校と相談しながら、交流学习についても検討していきたいと考えています。
51	学校づくり	近隣校との親睦を深めた学習を行ってもらいたい。	51	
52	学校づくり	複式学級は当面ないと理解していいか。 ※複式学級とは、2つ以上の学年を1つにした学級 国基準では1年生の場合、2年生と合わせて8人以下 2年生以降の学年は、複数の学年で編成した学級で16人以下となっています。	52	市費で教員を確保して、複式学級にしないように対応していきます。
53	学校づくり	通学路、スクールバス、防犯灯、道路の話は統合に合わせて同時進行できるか。	53	学校関係者・PTA・地域の皆様と協議しながら、具体的な検討を進めていきたいと考えています。
54	学校づくり	龍岡城の敷地で改築・新築はできないのか。	54	国指定の史跡のため、文化財保護法により龍岡城の敷地に新たに校舎を建てることは困難です。
55	まちづくり	人口を増やす要素を大切にしたい。	55	交通アクセスの良さ、天災の少なさなどの要素を生かし、都市農村交流事業、空き家バンク事業、工場誘致などにより、市外からの移住促進にも市全体で取り組んでいます。
56	まちづくり	老人ホーム勝間園の移転問題、小学校の問題も合わせて、臼田のまちづくりを含めた検討をしてもらいたい。	56	検討委員会は基本的には学校の在り方などについて協議する場ではありますが、地域づくりやまちづくりにも関連した意見等が出されることから、関係部局や関係団体等へつないでいきたいと考えています。
57	まちづくり	臼田地区の少子高齢化を止めるような施策をセットでやっていかなければならないのではないかと。	57	少子高齢化は市全体の問題であり、市でも諸施策を展開しています。
58	まちづくり	人口を増やすために若い母親が魅力を感じる施策を考えたらどうか。	58	市でも様々な施策を考えてまいります。また、どのような施策があれば魅力を感じるのか、皆様からも具体的な意見があれば出していただきたいと思っております。
59	まちづくり	各地区にある児童館はどうなるのか。	59	原則として1校1児童館ですが、学校整備の方針が出てから、市担当部局と協議し、利用について考えていきます。
60	まちづくり	次回には必ず市の方針が必要だ、弱腰にならず出して欲しい。	60	この説明会で出された意見を検討委員会に提出して、議論していただきながら一定の方向性を出していきたいと思っております。
61	まちづくり	統合よりもっと先に団地の建設など人口増加につながるやるべきことがあったのではないかと。	61	人口の増加対策については、市では産業や経済、保健福祉など、様々な面から振興策を進めています。

(佐久市型論点整理手法)

番号	分類	意見・要望事項	番号	考え方
62	まちづくり	小学校と地域は密接な関係がある。	62	学校と地域その歴史も考えながら、検討委員会で今後の学校の在り方について議論していきます。
63	まちづくり	地域での学校は大きな歴史がある。	63	
64	児童数の減少	学校の適正規模はどのくらいか。	64	国や県が示しているのは、1学年2～3クラスです。その理由として、 ①一定規模の確保ができる。 ②集団で運動や合唱ができる。 ③クラス替えをして生活や学びの環境を変える。 ④専科職員の配置ができる。 ⑤児童が興味を持つクラブ・部活動が開設できる。 ⑥中学校では全ての教科の職員が揃えられる。
65	児童数の減少	子どもが少ないと何が問題なのか。	65	多くの友と関わりながらのコミュニケーション能力の育成や、集団スポーツでの競い合い等が出来にくいといった問題が考えられます。子ども達の教育環境を考えると、少人数でもいい面はありますが、いろいろな意見を出し合いながら学び合う学習が十分出来なかったり、人間関係が固定化しがちであったりという側面もあります。
66	児童数の減少	子どもが少なくても問題をクリアしているところもある。	66	
67	児童数の減少	子どもが減っていくから統合だけという論議はいけない。	67	臼田地区小学校の将来を見据えて、どういう教育が子どもに望ましいか、検討委員会で一定の方向性を出していきます。
68	児童数の減少	少子化だけで他に問題はあるのか。	68	校舎の老朽化・望ましい教育環境など、多くの問題があると考えています。これらの問題について、臼田地区全体の将来を見据えながら、多くの皆様の意見をお伺いしながら、問題解決を図っていきたくと考えています。
69	児童数の減少	子ども達の減少に伴う教育の在り方はどうなるのか。	69	児童が集団で関わり合いながら、ものごとに主体的に向かう教育は変わりません。しかし、集団規模が小さくなり過ぎると、集団で学び合うという視点（集団で行うスポーツなどの学習面や、人間関係や相互の評価が固定しやすいなどの生活面）で大きな課題が生じると考えられます。これから検討委員会で、学校規模をはじめとした望ましい教育環境等についても議論していきます。
70	児童数の減少	1クラス4人や7人で先生が1人つくのか。	70	市教育委員会の中では、そういう場合には教員を市費で補充し、複式学級にしないよう1学年1学級を維持していきたい方針です。
71	児童数の減少	4人、38人という数字は、「これしかない」でなく、「こんなにいる」と捉えている。	71	皆様から様々な意見等をお聞きし、望ましい学校づくりの一定の方向性を出していきます。
72	学校施設	学校施設の老朽化以外は白紙の状況か。	72	子ども達にとって望ましい教育環境等について検討委員会で協議していく必要があると考えています。
73	学校施設	具体的な修繕の予定は決まっているのか。	73	大規模な修繕は、長期的な計画の中で実施していきます。児童の安全・安心な学習環境のため、必要な修繕は随時行っていく予定です。
74	学校施設	各小学校の耐震状況はどうか。	74	4小学校をそれぞれ調査し、基準値に満たない状況については平成20・21年度に耐震補強をしており、基準を満たしています。

3. 「第1回佐久市臼田地区小学校施設整備検討委員会」に出された意見・要望等

番号	期日	意見・要望事項	番号	考え方
75	平成26年5月14日	今後のスケジュールに意見公募が3回あり、その中での基本構想についての意見募集が1カ月しかないが、どういった情報をどんな形で皆さんに提供して意見を募るのか。	75	基本構想については、学校規模を含めどういった学校をつくるか、その学校の特色、そういったものを取りまとめ、市ホームページ等で意見募集をしたいと考えております。1カ月の募集期間については、状況によりその期間を延長することも考えております。
76	平成26年5月14日	この会議資料は、小学校等で使ってもいいのか。	76	多くの皆さんに知っていただくため、小学校等でも使用して構いません。検討委員会の会議録や資料を回覧板や市ホームページ等にも掲載していきます。
77	平成26年5月14日	小規模学校のデメリットに、仲間外れ等をもとに転校しなければならぬ状態を加えたらどうか。できるだけ早く最低20人くらいの学級・学年にもっていききたいと思う。	77	学級数が2～3あれば、クラス替えで対応するという事も出来ると思いますので、それもデメリットの一つと捉えています。
78	平成26年5月14日	地区児童館について、地区説明会での回答は「学校の方針が出てから協議していく」とあるが、小学校が統合した場合、各地区の児童館はなくなる可能性もあると認識していいか。	78	今後、小学校の方向性を出していく中で、児童館については市担当部局と協議して、利用について考えたいと思いますが、統合したからすぐに児童館がなくなるということではありません。
79	平成26年5月14日	保育園や幼稚園、これから小学校にあがっていく子どもの保護者の方々への説明は、各園とかを通じて行うのか。	79	保育園などで何かの会議の終わった後とか、そういう時を利用して保護者が集まる席に市が同席して説明させていただき、皆様の意見等をお聞きしたいと考えています。
80	平成26年5月14日	佐久市内の小学校で児童数が多い5校の児童推計が分かる資料が欲しい。	80	次回会議までに用意します。
81	平成26年5月14日	臼田地区の就学前の児童数は分かったが、日本の人口推計をもとに20年後くらいの児童推計が分かる資料が欲しい。	81	

臼田地区小学校児童数の推計

【児童数】

小学校区名	年度	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	増減率
田口	H26	45	45	38	35	47	46	256	0.0%
	H27	37	45	45	38	35	47	247	-3.5%
	H28	47	37	45	45	38	35	247	-3.5%
	H29	40	47	37	45	45	38	252	-1.6%
	H30	28	40	47	37	45	45	242	-5.5%
	H31	39	28	40	47	37	45	236	-7.8%
	H32	34	39	28	40	47	37	225	-12.1%
青沼	H26	4	15	15	12	13	13	72	0.0%
	H27	8	4	15	15	12	13	67	-6.9%
	H28	9	8	4	15	15	12	63	-12.5%
	H29	3	9	8	4	15	15	54	-25.0%
	H30	7	3	9	8	4	15	46	-36.1%
	H31	7	7	3	9	8	4	38	-47.2%
	H32	8	7	7	3	9	8	42	-41.7%
切原	H26	19	14	22	12	18	21	106	0.0%
	H27	9	19	14	22	12	18	94	-11.3%
	H28	16	9	19	14	22	12	92	-13.2%
	H29	20	16	9	19	14	22	100	-5.7%
	H30	14	20	16	9	19	14	92	-13.2%
	H31	11	14	20	16	9	19	89	-16.0%
	H32	15	11	14	20	16	9	85	-19.8%
臼田	H26	33	32	30	42	37	37	211	0.0%
	H27	29	33	32	30	42	37	203	-3.8%
	H28	21	29	33	32	30	42	187	-11.4%
	H29	33	21	29	33	32	30	178	-15.6%
	H30	39	33	21	29	33	32	187	-11.4%
	H31	27	39	33	21	29	33	182	-13.7%
	H32	37	27	39	33	21	29	186	-11.8%
4小学校計	H26	101	106	105	101	115	117	645	0.0%
	H27	83	101	106	105	101	115	611	-5.3%
	H28	93	83	101	106	105	101	589	-8.7%
	H29	96	93	83	101	106	105	584	-9.5%
	H30	88	96	93	83	101	106	567	-12.1%
	H31	84	88	96	93	83	101	545	-15.5%
	H32	94	84	88	96	93	83	538	-16.6%

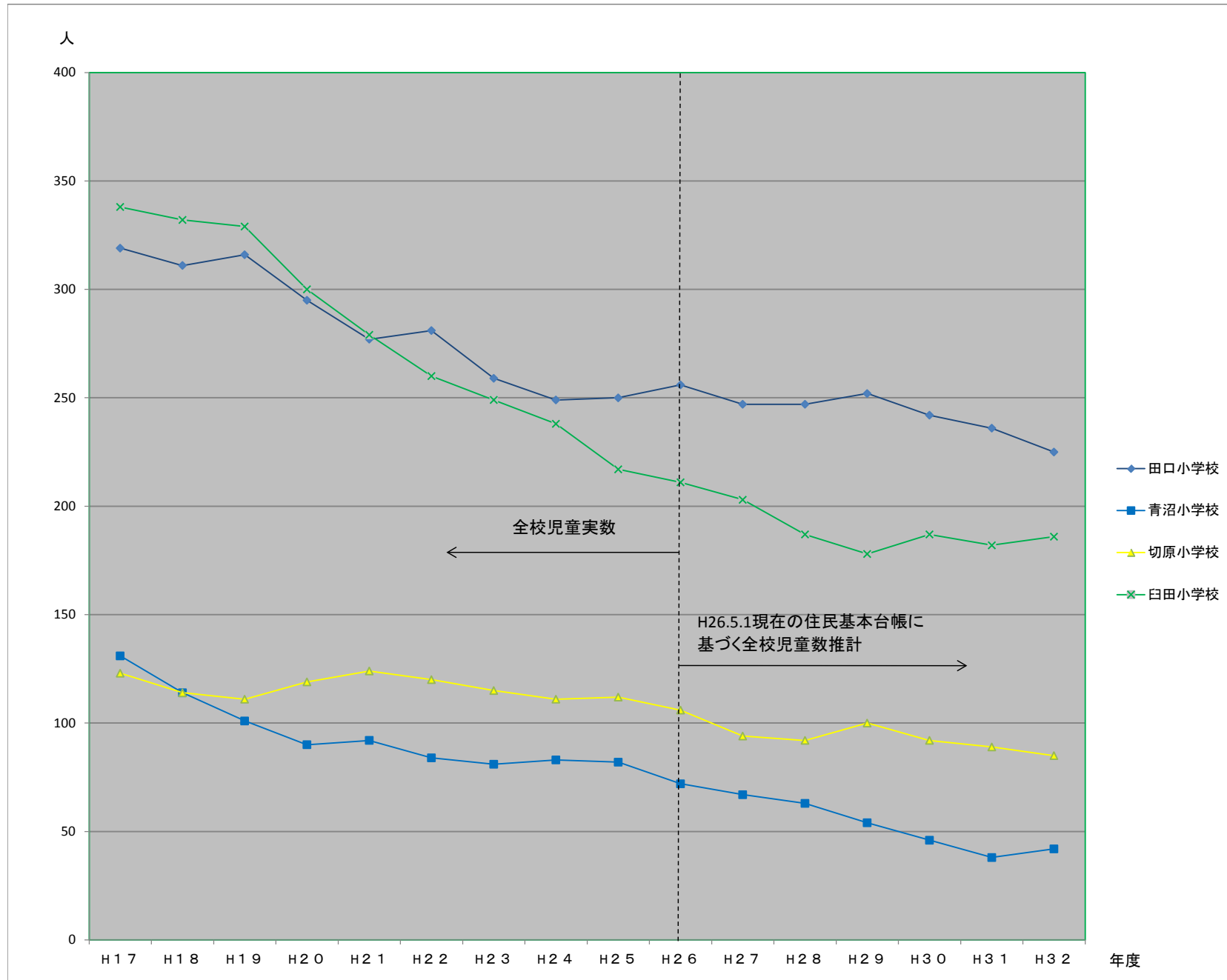
【学級数35人】

小学校区名	年度	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	増減率
田口	H26	2	2	2	1	2	2	11	0.0%
	H27	2	2	2	2	1	2	11	0.0%
	H28	2	2	2	2	2	1	11	0.0%
	H29	2	2	2	2	2	2	12	9.1%
	H30	1	2	2	2	2	2	11	0.0%
	H31	2	1	2	2	2	2	11	0.0%
	H32	1	2	1	2	2	2	10	-9.1%
青沼	H26	1	1	1	1	1	1	6	0.0%
	H27	1	1	1	1	1	1	6	0.0%
	H28	1	1	1	1	1	1	6	0.0%
	H29	1	1	1	1	1	1	6	0.0%
	H30	1	1	1	1	1	1	6	0.0%
	H31	1	1	1	1	1	1	6	0.0%
	H32	1	1	1	1	1	1	6	0.0%
切原	H26	1	1	1	1	1	1	6	0.0%
	H27	1	1	1	1	1	1	6	0.0%
	H28	1	1	1	1	1	1	6	0.0%
	H29	1	1	1	1	1	1	6	0.0%
	H30	1	1	1	1	1	1	6	0.0%
	H31	1	1	1	1	1	1	6	0.0%
	H32	1	1	1	1	1	1	6	0.0%
臼田	H26	1	1	1	2	1	2	8	0.0%
	H27	1	1	1	1	2	1	7	-12.5%
	H28	1	1	1	1	1	2	7	-12.5%
	H29	1	1	1	1	1	1	6	-25.0%
	H30	2	1	1	1	1	1	7	-12.5%
	H31	1	2	1	1	1	1	7	-12.5%
	H32	2	1	2	1	1	1	8	0.0%
4小学校計	H26	3	4	3	3	4	4	21	0.0%
	H27	3	3	4	3	3	4	20	-4.8%
	H28	3	3	3	4	3	3	19	-9.5%
	H29	3	3	3	3	4	3	19	-9.5%
	H30	3	3	3	3	3	4	19	-9.5%
	H31	3	3	3	3	3	3	18	-14.3%
	H32	3	3	3	3	3	3	18	-14.3%

※学級数は特別支援学級を除く

臼田地区4小学校 平成17年度～平成32年度までの全校児童推移表

平成26年5月1日



(単位:人)

小学校名 \ 年度	全校児童実数(学校基本調査より)										H26.5.1現在の住民基本台帳に基づく全校児童数推計					
	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
田口小学校	319	311	316	295	277	281	259	249	250	256	247	247	252	242	236	225
青沼小学校	131	114	101	90	92	84	81	83	82	72	67	63	54	46	38	42
切原小学校	123	114	111	119	124	120	115	111	112	106	94	92	100	92	89	85
臼田小学校	338	332	329	300	279	260	249	238	217	211	203	187	178	187	182	186
小学校計	911	871	857	804	772	745	704	681	661	645	611	589	584	567	545	538

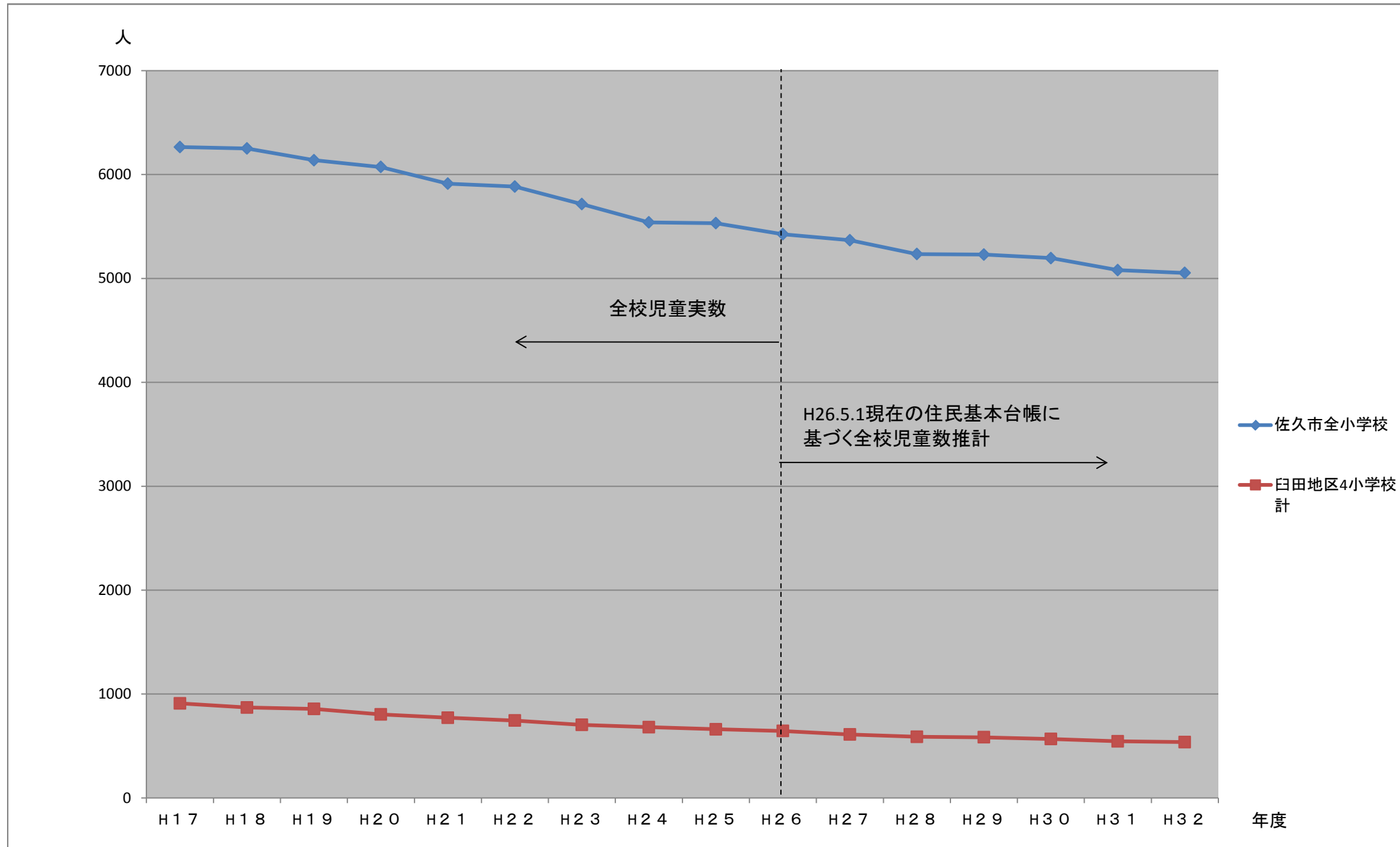
住民基本台帳に基づく行政区別乳幼児数 (基準日:平成26年5月1日)

(単位:人)

行政区 \ 年齢(単位:才)	0	1	2	3	4	5	合計
馬坂	0	0	0	0	0	0	0
広川原	0	0	0	0	0	0	0
丸山	0	0	0	1	2	1	4
宮代	2	2	2	0	3	1	10
川原宿	1	1	0	0	0	0	2
田口中町	1	1	3	3	3	2	13
下町	3	4	4	3	1	8	23
清川	0	4	0	4	3	3	14
大奈良	5	4	3	2	2	4	20
原	3	7	2	4	10	2	28
上中込	5	5	4	7	4	5	30
下越	7	9	7	9	11	5	48
竜岡	1	1	1	3	1	4	11
三分	6	1	2	4	7	2	22
田口小学校区 計	34	39	28	40	47	37	225
入澤	2	2	1	1	4	2	12
三条	5	3	6	2	2	6	24
十日町	1	0	0	0	1	0	2
岩水	0	2	0	0	2	0	4
青沼小学校区 計	8	7	7	3	9	8	42
滝	1	1	2	3	2	1	10
湯原	1	1	0	5	3	0	10
湯原新田	1	0	1	1	1	0	4
上小田切西	2	0	2	0	2	2	8
上小田切	0	0	0	0	3	1	4
中小田切	0	3	0	4	1	0	8
北川	10	6	9	7	4	5	41
切原小学校区 計	15	11	14	20	16	9	85
横山	2	2	4	2	2	4	16
下小田切	3	4	4	1	0	4	16
泉ヶ丘	1	5	2	3	2	3	16
臼田勝間	1	0	2	1	0	0	4
城山	0	0	2	0	0	1	3
城下	0	0	2	2	0	0	4
宮本	0	0	1	0	0	0	1
稲荷	1	0	1	2	0	0	4
中央	0	0	1	1	0	0	2
臼田中町	1	1	1	1	0	0	4
住吉	3	2	2	4	2	2	15
伊勢	7	3	1	0	5	1	17
諏訪	0	1	0	1	1	3	6
上荒	0	0	1	0	0	1	2
中荒	1	0	1	0	0	0	2
下荒	4	0	4	1	0	2	11
美里	8	9	9	12	5	6	49
岳見	0	0	0	0	0	0	0
旭ヶ丘	5	0	1	2	4	2	14
平	0	0	0	0	0	0	0
臼田小学校区 計	37	27	39	33	21	29	186
臼田地区 合計	94	84	88	96	93	83	538

佐久市全小学校と臼田地区4小学校の 平成17年度～平成32年度までの全校児童推移表

平成26年5月1日



(単位:人)

小学校名 \ 年度	全校児童実数(学校基本調査より)										H26.5.1現在の住民基本台帳に基づく全校児童数推計					
	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
佐久市全小学校	6,264	6,251	6,138	6,072	5,912	5,884	5,715	5,540	5,531	5,425	5,368	5,234	5,229	5,196	5,080	5,053
臼田地区4小学校計	911	871	857	804	772	745	704	681	661	645	611	589	584	567	545	538

小・中学校別建物等保有状況

平成25年5月1日現在

	建物面積及び建設年度						校地面積		プール保有面積
	校舎			屋内運動場			建物敷 保有面積 (㎡)	運動場敷 保有面積 (㎡)	
	必要面積 (㎡)	保有面積 (㎡)	建設年度	必要面積 (㎡)	保有面積 (㎡)	建設年度			
岩村田小学校	9,472	7,830	S45~47 (増H11,15)	1,552	1,489	S47~48	14,975	8,026	大 25 × 24 = 600㎡ 11コース 小 15 × 14 = 210㎡ (鉄板)
平根小学校	3,731	3,922	S62	922	1,092	S63	4,735	9,259	大 25 × 15 = 375㎡ 7コース 小 13 × 8 = 104㎡ (FRP)
中佐都小学校	5,200	4,436	S58~59 (増H10)	1,258	1,092	S60	10,144	7,637	大 25 × 15 = 375㎡ 7コース 小 15 × 7 = 105㎡ (FRP)
高瀬小学校	3,437	3,964	S56~57 (増H10,24)	922	1,000	S58	7,808	9,633	大 25 × 15 = 375㎡ 7コース 小 15 × 7 = 105㎡ (FRP)
野沢小学校	6,616	5,948	S56~57 (増H18)	1,258	1,081	S57	13,518	9,150	大 25 × 16 = 400㎡ 6コース 小 15 × 8 = 120㎡ (ステンレス)
泉小学校	5,200	5,798	H23	1,258	1,256	H24	9,631	11,905	大 25 × 15 = 375㎡ 7コース 小 15 × 7.5 = 112㎡ (FRP)
岸野小学校	3,437	3,899	S58~59	922	917	S43	6,202	7,220	大 25 × 14 = 350㎡ 7コース 小 15 × 7 = 105㎡ (ステンレス)
中込小学校	5,437	5,599	S51~52	1,258	1,022	S53	14,976	10,848	大 25 × 16 = 400㎡ 8コース 小 10 × 10 = 100㎡ (ステンレス)
佐久城山小学校	5,200	4,946	S55~56 (増S63)	1,258	1,264	H14	8,625	8,416	大 25 × 16 = 400㎡ 8コース 小 15 × 7 = 105㎡ (ステンレス)
東小学校	5,414	4,670	H元	1,258	1,092	H元	9,549	11,123	大 25 × 15 = 375㎡ 7コース 小 15 × 7 = 105㎡ (FRP)
田口小学校	4,400	3,183	S47~48	1,092	1,111	S28	10,420	10,209	大 25 × 13 = 325㎡ 7コース 小 10 × 7 = 70㎡ (ステンレス)
青沼小学校	2,564	2,554	S51~52 (増H8)	922	923	S59	4,421	8,635	大 25 × 13 = 325㎡ 7コース 小 14 × 5 = 70㎡ (ステンレス)
切原小学校	2,748	3,192	S45 (増S56~58)	922	968	S57	6,099	12,470	大 25 × 13.6 = 340㎡ 7コース 小 10 × 10 = 100㎡ (FRP)
臼田小学校	3,731	4,730	S42 (増S49~50)	922	1,045	S39 (増S57)	9,674	12,696	大 25 × 15 = 375㎡ 7コース 小 11 × 7 = 77㎡ (鉄板)
浅科小学校	5,200	4,214	S55~56 (増S62)	1,258	1,321	S56	12,257	14,443	大 25 × 15 = 375㎡ 7コース 小 7 × 5 = 35㎡ (アルミニウム)
望月小学校	5,673	7,543	H18~20	1,258	1,230	H20	15,671	9,220	大 25 × 12 = 300㎡ 6コース 小 7 × 6 = 42㎡ (FRP)
佐久平浅間 小学校(仮称)	6,147	0	H26 (予定)	1,258	0	H26 (予定)	17,750 (予定)	9,500 (予定)	大 25 × 15 = 375㎡ 11コース 小 15 × 8 = 120㎡ (FRP)

学校給食施設一覧

施設の名称及び位置等

H26. 4月現在

名称	位置	設置年月日・建物面積	給食する学校
学校給食 南部センター TEL 0267-62-0617 FAX 0267-63-1249	佐久市原 563番地1	平成5年4月1日 1,239.53㎡	野沢中学校、中込中学校 野沢小学校、泉小学校 岸野小学校、中込小学校 ※1日当たり 給食提供食数 2,717食 (教職員等含む)
学校給食 北部センター TEL 0267-67-5694 FAX 0267-66-3450	佐久市長土呂 64番地22	平成15年1月5日 1,753.91㎡	浅間中学校、東中学校 岩村田小学校、平根小学校 中佐都小学校、高瀬小学校 東小学校 ※1日当たり 給食提供食数 3,401食 (教職員等含む)
学校給食 臼田センター TEL・FAX 0267-82-2547	佐久市田口 6450番地	昭和56年4月1日 649.97㎡	臼田中学校、臼田小学校 田口小学校、青沼小学校 切原小学校 ※1日当たり 給食提供食数 1,122食 (教職員等含む)
学校給食 浅科センター TEL・FAX 0267-58-2103	佐久市甲 2003番地1	昭和57年4月1日 279㎡	浅科中学校、浅科小学校 ※1日当たり 給食提供食数 561食 (教職員等含む)
学校給食 望月センター TEL 0267-53-8180 FAX 0267-53-8188	佐久市協和 6925番地	平成16年4月1日 749.45㎡	望月中学校、望月小学校 ※1日当たり 給食提供食数 711食 (教職員等含む)
佐久城山小学校 TEL 0267-62-0356 FAX 0267-62-0118	佐久市平賀 5325番地1	昭和56年4月1日 133㎡	佐久城山小学校 ※1日当たり 給食提供食数 410食 (教職員等含む)

	建物面積及び建設年度						校地面積		プール保有面積
	校舎			屋内運動場			建物敷 保有面積 (㎡)	運動場敷 保有面積 (㎡)	
	必要面積 (㎡)	保有面積 (㎡)	建設年度	必要面積 (㎡)	保有面積 (㎡)	建設年度			
浅間中学校	7,930	9,704	H20~21	1,511	1,994	H22	14,744	17,439	大 25 × 25 = 625㎡ 12コース (FRP)
野沢中学校	7,428	7,937	H15~17	1,511	1,511	H18	19,355	15,849	大 50 × 20 = 1,000㎡ 9コース (コンクリート)
中込中学校	6,263	6,917	H4	1,511	1,384	H5	14,412	17,503	大 50 × 20 = 1,000㎡ 9コース (FRP)
東中学校	4,762	5,465	H6~7	1,237	1,237	H8	13,501	17,686	大 50 × 15 = 750㎡ 8コース (FRP)
臼田中学校	6,263	7,085	H22~23	1,511	1,526	H24	12,983	15,997	大 25 × 21 = 525㎡ 10コース (FRP)
浅科中学校	4,014	4,335	S62 (増H8)	1,237	1,506	S62	20,056	18,144	大 25 × 15 = 375㎡ 7コース (ステンレス)
望月中学校	4,762	7,635	S37~39	1,237	1,462	S40~42	18,483	16,679	大 50 × 18.2 = 910㎡ 9コース (コンクリート)
望月中学校 (改築後)	4,762	6,317	H25~26 (予定)	1,237	1,511	H28 (予定)	18,483 (予定)	16,679 (予定)	大 25 × 17 = 425㎡ 8コース (FRP)

小規模学校のメリット・デメリット

項目	メリット	デメリット
学習面	○児童の一人ひとりに目が届きやすく、きめ細かな指導が行いやすい。	○集団の中で多様な考え方に触れる機会や学びあいの機会が少なくなりやすい。 ○1学年1学級の場合、ともに努力してよりよい集団を目指す、学級間の相互啓発がされにくい。
	○学校行事や部活動等において、児童一人ひとりの個別の活動機会を設定しやすい。	○運動会などの学校行事や音楽活動等の集団教育活動に制約が生じやすい。 ○児童数・教員数が少ないため、グループ学習や習熟度別学習、小学校の専科教員による指導など、多様な学習・指導形態を取りにくい。
生活面	○児童相互の人間関係が深まりやすい。 ○異学年間の縦の交流が生まれやすい。 ○児童の一人ひとりに目が届きやすく、きめ細かな指導が行いやすい。	○集団内の男女比に極端な偏りが生じやすくなる可能性がある。 ○切磋琢磨する機会等が少なくなりやすい。 ○組織的な体制が組みにくく、指導方法等に制約が生じやすい。
学校運営面・財政面	○全職員間の意思疎通が図りやすく、相互の連携が密になりやすい。 ○学校が一体となって活動しやすい。	○教職員数が少ないため、経験・教科・特性などの面でバランスのとれた配置を行いにくい。 ○学年別や教科別の教職員同士で、学習指導や生徒指導等についての相談・研究・協力・切磋琢磨等が行いにくい。 ○一人に複数の校務分掌が集中しやすい。 ○教員の出張、研修等調整が難しくなりやすい。
	○施設・設備の利用時間等の調整が行いやすい。	○子ども一人あたりにかかる経費が大きくなりやすい。
その他	○保護者や地域社会との連携が図りやすい。	○PTA活動等における保護者一人当たりの負担が大きくなりやすい。

2. 望ましい学校規模・学級規模

人間関係形成力等を育むために集団で関わる場や機会を充実することや、適性を生かせる選択肢の多い環境を用意することなど、子どもにとっての教育環境の質を保障できる規模が望ましい。以下に、望ましい学校規模、学級規模を示す。

○学年に複数の学級がある規模であること。

- ・クラス替えができ、互いの見方や関わり方を見つめ直し、人間関係を広げることができる。
- ・学年、学級など異なる大きさの集団を生かした活動を様々な工夫できる。

○小学校では専科教員が配置できる規模であること。

- ・専門性の高い授業が可能で、全校で統一した指導を進めることが可能となる。
- ・担任以外の教員と関わる機会ができ、多様な価値観に触れられる。

○中学校ではすべての教科の教員がそろえられる規模であること。

- ・免許外申請などにより対応することなく、教科の教員免許をもつ教員が指導できる。
- ・さらに各教科に複数の教員がいると、互いの専門性を生かした指導計画、教材、客観性を確保した評価テストなどが作成でき、指導力の向上、教育の質の保障を図りやすくなる。

○児童生徒の興味や関心に応じたクラブ活動や部活動を開設できる規模であること。

- ・児童生徒が主体的に関われる場や機会を保障できる。

○児童生徒が一定程度在籍している学級規模であること。複式学級にならない規模であること。

- ・授業で多様な考えが出やすく、ボールゲームや合唱なども学習を広げやすい。
- ・一定期間ごとに、構成が異なる生活グループや係分担を組める。

以上のことから、子どもに集団での学びを保障するために、学年に複数の学級がある学校規模が望ましい。少なくとも学年で20人程度を確保できることが望ましい。

本県の場合、すべての学年が1学級以下の小学校はおよそ3校に1校の割合、中学校はおよそ5校に1校の割合であり、複式学級を編制する学校も増加してきている。このような学校規模、学級規模における課題を例示する。

学校規模が小さいことによる課題例

学年単級で一部複式学級がある小学校（例）

学級数	5（内、複式1）	
児童数	1～4年	各10人
	5・6年（複式）	8人
	全校	48人

【配置される教員】
校長、教頭、担任5人

【課題例】

○学習面

- ・専科教員が配置されないため、音楽等の教科で専門性が高い指導を受けられず、担任がそれぞれ指導することから学校で統一した指導を実施しにくい。
- ・集団の中で、多様な考えに触れる機会や互いの意見に学ぶ機会等が少なくなりやすい。
- ・複式学級では、たとえば算数の別々の学年の内容を同じ教室で学習するため、指導の工夫が必要になる。

○生活面

- ・一人の役割が大きくなり個別の活動機会を設定しやすい一方、負担が大きくなる。
- ・クラス替えが困難なことなどから、人間関係や相互の評価等が固定しやすい。
- ・学級内の男女のバランスに極端な偏りが生じる可能性がある。

学年単級の中学校（例）

学級数	3	
生徒数	1～3年	各15人
	全校	45人

【配置される教員】
校長、教頭、担任3人、専科4人

【課題例】

○学習面

- ・すべての教科（10教科）の専任の教員をそろえられない。
- ・保健体育の球技ではベースボール型のソフトボールの学習は履修すべき内容であるが、人数に合わせてルールを変更する必要があるなど、学習に制約が生じる。

○生活面

- ・小学校の例と同様。

○部活動

- ・運動部27人、文化部10人*程度と想定されることから、部活動は運動部と文化部を1つずつ開設できるのみとなり、生徒の興味や関心に応じた選択肢を用意できない。

* 県全体の部活加入率から推計した人数

今後のスケジュール(案)

